

感想・メッセージ

樋渡啓祐先生

〈医師〉

- ・周りを巻き込んで **Story** から **History** へ
大変感銘を受けました。ありがとうございました。
- ・実践あるのみと改めて感じました。
- ・よい **Story** が集まると **History** になるというのは、本当に素敵です。
Story をつくります。
- ・「笑い」を忘れていました。
本屋+医療+住宅 を目指します！
- ・形にはまらない発想力。私も見習いたいと思います。

〈コメディカルスタッフ〉

- ・私は平戸市民病院で作業療法士として働いています。以前は武雄市民病院（現在の新武雄市民病院）で働いていました。忘年会の余興で樋渡さんから褒められたことを覚えています。武雄での経験を活かして今、頑張っています。今日はありがとうございました。
- ・今の自分をみつめなおすきっかけになりました。
自分のストーリーと患者さんのストーリーを組み合わせることができたらいい看護ができると思いました。
- ・樋渡先生の事は、TV やラジオ等で知り、今日の講演を楽しみにしていました。
先生のお話は、とても興味深く楽しくお話を聞かせていただきました。
- ・大変おもしろく聞けました。今後、武雄図書館に行ってみます。
ありがとうございました。
- ・想像以上にとっても楽しい講演会でした。私も武雄図書館の大ファンです。
日々の仕事に講演会のアドバイスを取り入れながら頑張りたいと思います。
- ・失敗で終わらず成功を目指す。前向きに考えていこうと思いました。
- ・私にも出来ることがあるかなとやる気が出ました。地域を良くする働きかけができるといいなと思いました。
素晴らしいお話をありがとうございました。
- ・とても面白くてためになるお話をありがとうございました。
とにかくこれからも頑張ります。
- ・組む、スピード、笑いが大切だと伺いました。病院も各部署と連携をとり地域の人たちを巻き込み、良い病院だといわれるように努力したいと思いました。
ありがとうございました。
- ・地方で頑張っていきたいと思えるようになりました。

- ・おもしろい講演でした。1時間がすごく早く感じるほどでした。
相手や人が何を望んでいるか、言葉、行動なりまわりを巻き込んでみます。ありがとうございました。
- ・地方を活性化させるためには、一人よりも複数、大勢、市民がどんなものを求めているか想像を膨らませることが大事なことが分かりました。
すごいパワーとエネルギーを得たような気がします。平戸を活性化させるためにも自分の story を生み出したいと思いました。
- ・笑いの中に「これは」というポイントを教えていただきました。これからも周りの方と一緒に頑張って仕事をしていきます。
- ・とても面白くて話に引きこまれました。何も変化のない日常の中で何か変わりたい、変えたいと影響を受けました。こんな田舎ですごく貴重な話を聞いてとてもラッキーでした。
(医学生)
- ・とても勉強になりました。諦めないことは、敵が多い中で大事だと思います。
- ・組合せることが大事だという話は新鮮だと思った。他にも、今まで自分にはなかった考え方がたくさん聞けて、とても面白かったし勉強になった。
- ・すごく楽しい講演でした。医療を提供していく上で、皆がワクワクするような組み合わせをしていければと思いました。
- ・何かと何かを組み合わせるというのは、とても斬新な考え方で参考になりました。
僕も意外な組み合わせを考えてみたいと思います。
- ・面白く、印象深いご講演でした。ありがとうございました。
- ・自分だけでやろうとしてもできないけれど周りを巻き込めば周りがさらに巻きこんでくれるというのは面白いと思いました。組む相手の意外性、ズレ感というのは確かにそうだと感じました。本当に面白かったです。
ここまでひたすら前進していこうとできること、それはすごいと思いました。
- ・テンポよい話が楽しかったです。笑える箇所が的確に折りこまれていて、凄いいました。笑いが大事と仰っていたのを実践されているのがよかったです。
うまくいかない物事は組み合わせるといってお話でしたが、組み合わせのアイデアがわくところがすごいと思います。
- ・今日は面白いお話をありがとうございました。こんなに面白くてためになるお話を聞いたのは初めてで、とても聞き入ってしまいました。
私も何かを始めたり、企画したりする時、「これはどうするだ」「これが足りてないんじゃないか」と不十分な所ばかりが目について、なかなか行動に移れないことがあります。特に大勢の人が関わってくる企画になると、なおさらです。あまり深く考えて思いつめずに自分のしたいことを尊重できるような行動を取りたいと思いました。
(その他)
- ・樋渡先生、お忙しい中、貴重なご講演をありがとうございました。

大変勉強になりました。組み合わせ、スピード、情報、私は宮崎県延岡市で往診の鍼灸院をしています。開業して1年で手探りだらけ。失敗もたくさんあります。

“失敗したらやめる人が多い。成功するまでする。”との言葉、響きました。

今からも、もっともっと頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。

- ・とても勉強になりました。今後の人生の糧にしていきたいです。
- ・アンテナや視野の広さに驚きました。
- ・樋渡さんがこれから実現したいのは、本、医療、住宅の組み合わせとのこと。国内で新しい改革を起こした方が、この3つのキーワードを基に何処を改革されるのか楽しみです。

講演会の中で名言が幾つか出てきた。

*スピードは最大の付加価値であり、相手が言って（行って）欲しい事をやることが大事で、エッジを利かせて変える事が本当の改革であるとも。

*成功するまで続ける＝成功の一里塚→成功は成功を呼ぶ。

*線が繋がると面になる。この面を使って自分の周囲を巻き込むこと。

*モノは無くても物語がある（売れる）。自分の（患者さんの）物語を作る。Storyを高く（High）することで、Historyになる（する、させる）！

齋藤学先生

〈医師〉

- ・若い医師、学生さんの質問が多かったということが齋藤先生の講演が面白かったということだと思います。ゲネプロ、楽しみにしています！

〈コメディカルスタッフ〉

- ・行動力と熱い思いに感動しました。組織づくりについても勉強になりました。
- ・講演、ありがとうございました。

体験談が分かりやすく聞きやすかったです。一人ではなく仲間を増やし助け、助けられながら、医療、看護ケアなどに取り組まなければいけないと感じました。

明日から新たな気持ちで仕事にのぞもうとおもいました。

- ・とても素晴らしいお話が聞けてよかったです。お話を聞き、へき地医療を目指すかたが増えたらいいなと思いました。
- ・日本だけでなく、世界の地位医療はとても厳しいものであるということがよく分かりました。医師が少ない分、チーム医療をやっていないといけない。私達もチームの一員として頑張っていないといけないと思いました。
- ・お疲れ様でした。オーストラリアとモンゴルでの医療等、人間関係等の素晴らしい講演、ありがとうございました。とても良いご講演でした。今後のご活動をお祈り致します。

お身体、御自愛くださいませ。

〈医学生〉

- ・離島・へき地で一人前の医師として働くのが難しいということ、救急を学んでから離島に

行くのがいいというのが印象的でした。

- ・ オーストラリアのへき地医療の様子がわかった。

日本では産婦人科を診ることができる総合診療医というのはとても少ないと思うので、まずは救急の症例をたくさん経験できる研修病院で研修し、その後産婦人科を学ぼうと思いました。

- ・ 信念のもとにフットワークが軽く、活動していらっしゃる姿が印象的でした。

齋藤先生が考えておられるオーストラリアの研修プログラムが日本で実現したらと思うとわくわくしますが、そのプログラムができるまでの間に私たちができることを考えたいと思いました。

都会が教育の場となる完全分離ではなく、若手が離島・へき地を教育の場として認識できるものがあってほしいと感じます。

地域だからこそ世界へという考えがうかぶように感じました。

- ・ 今日面白いお話をありがとうございました。私は医者になるなら、人手が足りていない場所で働きたいと考えていたので、ご自身もへき地で働いた経験があり、またへき地へ医師を派遣したいという齋藤先生のお話やゲネプロという組織にとっても興味を持ちました。

いつかはへき地で働くことのできる力をつけて働きたいと思います。

〈その他〉

- ・ とても熱い講演、ありがとうございました。とても勉強になりました。
- ・ 貴重なご講演、ありがとうございました。とても熱いご講演で大変勉強になりました。

齋藤先生のように“指導医を育てる”という志を持たれている先生が日本にいてくださってとても心強いです。残念ながら鍼灸の世界では、まだまだ研修プログラムが整っていないのが現状です。

地域医療、へき地医療にとっても興味があるので、もっともっと勉強して精進してまいりたいと思いました。ありがとうございました。

- ・ 齋藤先生が立ち上げている活動のビジョンは

1. 離島・へき地で、一人前に働ける Dr になること。
2. 離島・へき地で、一人前に働ける Dr を育てること。
3. 離島・へき地で、一人前に働ける Dr を育てられる Dr になること。

の3つを挙げられている。すなわち、最終的には“指導医を育てる医者を目指している”とのこと。

また、齋藤先生が考えるプロの意義については、「ユニフォームが変わっても同じ仕事、ユニフォームが変わっても同じ仲間」だと語られ、以前、元メジャーリーガーの松井秀喜さんも同じ事を話された。

Q&Aで「医者としてのマインドについて」のQに対して齋藤先生は「働きたい場所に行って技術を確認する事、地域に求められるものは何か？を考えること」との回答。現在、

東京 23 区を除いて 1,718 ある市町村ごとの土地の面積、市町村の人口等が当然ながら異なる。地域医療も 1,718 通りあれば、求められるものは無限であり、自問自答をしながら各々の地域で医療活動を行っていくことが地域医療の根源であるのでは？と感じた。

モンゴルでは医学部卒業後 2 年間は、へき地医療に従事することが必須で、在宅医療が充実しているとのこと。地理的には通院することが困難な為、各家庭において医療の知識レベルが高いと推察する。オーストラリアは救急医とへき地医療に従事することが必須だと言う。日本は、救急医療、離島・へき地医療の教育システムに関して強制力を持たせるべきだと改めて感じた。

尾身茂先生

〈コメディカルスタッフ〉

- ・ WHO の活躍とは私達が想像できないほどの努力をされていることに改めて考えさせられました。世界の人口が増える、平均寿命が延びたということは WHO の努力により感染症を撲滅しようとされているからとよく分かりました。
- ・ もっとお話の続きを聞きたかったです。ポリオの根絶の発表など、決断や責任の重さは想像できないほど大きいと思いました。未熟ですが、もっと道を切り拓いていきたいなと思いました。

〈医学生〉

- ・ ポリオの根絶のため、メコンデルタ地域や中国の一人っ子政策を乗り越えたお話がさすがだと思いました。

これからの医師は、Common Disease を診られる総合医が必要というお話、なるほどだと思いました。

- ・ 医師に求められる姿勢がよくわかりました。
- ・ ご自身の学生時代のお話から（アメリカ留学の 1 年間で尾身先生に非常に大きな影響を与えていたことが伝わりました）ストーリー性をもってお話していただき、とても大きな方だと感じました。また、地域医療に求められているものを強く訴えていただき、印象的でした。将来をにんっている私たちが、夢や志をもって進んでいくことへ期待を感じとり、自分自身を振り返ることができました。

若者への強いメッセージをいただき、ありがとうございました。

- ・ 今日は、面白いお話をお聞きありがとうございました。先生の人生はなかなか珍しい出来事ばかりで聞いていて面白く、こんな生き方をされている方もいらっしゃるんだなあと驚きました。私は普段、小さいことばかりに気を取られ、やらなければいけないことと好きなことを同時にやろうとして、どちらもなあなあになってしまうことが多いですが、尾身先生のお話を聞いて、今しかできないことを思う存分やりたいと思うようになりました。また、「こんなことできるわけない」と思うこともやめて、実現させたいことには本気で取り組みたいと感じました。

〈その他〉

- ・先ず、驚いたのは不躰ではあるが、大変気さくな方だと感じました。尾身先生は、高校時代にアメリカ留学された話から始まり、WHOでの話、JCHOの目的、私達へのメッセージ、尾身先生自身が考えるリーダー像、ここだけの内緒話まで語られた。

尾身先生は講演中に「これからは、地域完結型の医療を目指す」と。この意は「高度急性期、急性期、回復期、慢性期に機能分化して切れ目なく受け皿となる地域に繋ぐ。そして、病気と共存しながら、QOL (Quality of Life) の維持・向上に努める。」と。更に、WHOでの回顧話や昨年、日本国内を恐怖にさせたデング熱についても言及された。このことから「日本に足りないのは総合、地域包括ケアシステムです。それは、日本は職人技に長けているがチーム医療が遅い」ことが教訓になったそうです。この言葉に共感しました。

続けて「医療は複雑系でその改善には急所を押えることが大事である」とも。その日本の医療の急所は？と言うと①総合医の育成（地域医療 or 総合診療医）、②地域における連携の強化、③ITの強化（e.g.クラウド型にする事）、④フロントラインの先生を重視する事だそう。

Q&Aの中で、「好きな目標を逆算して、積み重ねていくことが大事。現状維持から始めることとは大違い！」と話され、当時の自分の心境に迷いが生じていたので、痛感するものが大きかった。尾身先生が考えるリーダー像は、私達だけでなく、現在の政治家に求めているように感じた。

- ・とても楽しい講演、ありがとうございます。これからの人生に活かしていきたいと思えます。
- ・尾身先生、貴重なご講演をありがとうございました。

これからの医療は、“国民的目線に立ち、患者さんのニーズは何か？”ということが大切ということで、病気をみるのではなく、患者さんや患者さんの背景、ご家族のケアができるよう、今後精進してまいりたいと思えます。ありがとうございました。

神田萌先生

〈医師〉

- ・「何でも一生懸命やる」この言葉、私も好きです。より高いプロの道を目指してください。

〈コメディカルスタッフ〉

- ・生月は島です。高齢化がすすんでいます。人口も減っていますが、島には病院が一つしかなく殆どの救急車が当院に来ます。ですが、医師も看護師も高齢化、医師不足、看護師不足も慢性化しています。神田先生、「待っています!!!」
- ・へき地に貢献されていたのもしいです。

〈医学生〉

- ・神田先生の経歴を聞いていると、一見普通の医学生のようにも全てにおいて頑張るとい
のはなかなかできることではないなと感じました。「何をするか」ということはとても大
事ですが、「どこまで努力するか」ということはもっと大事なんだろうなあと改めて感じ
ました。今後、学生生活の参考にしたいと思います。お仕事、頑張ってください。
- ・後期研修について伺う機会が少なかったので面白かったです。
神田先生も何度か仰っていましたが、自分の地域を外からみるという体験はどこかで
必ず必要だと思いました。
- ・私も長崎でずっと過ごしてきて、外からみえてみるべきという言葉が印象的でした。神田先
生の歴史を聞いて嬉しかったです。ありがとうございました。
- ・バトミントン部に所属しながら高い志を目指す神田先生の背中を追いかけていたいと思いま
す。

香田将英先生

〈医師〉

- ・学生の頃から医療のことを考えて行動してきたことは素晴らしいと思います。
私も生まれた土地に戻って自分の生まれた土地の健康や医療の役に立てるよう生きて
いきます。「なら」、「しか」私も考えていきたいと思います。

〈コメディカルスタッフ〉

- ・「なら」「しか」「～ために」のワードは、なるほどと感じました。
患者さんにとって、一番身近な存在で、その人に寄り添っていける人になりたいです。
その患者さんにとって、その疾患・症状は一部分であり、その患者さんを丸ごと受け止め
て、接していきたいと、ふり返ることができました。講演、ありがとうございました。
- ・へき地に貢献されていたのもしいです。
- ・自分の思いや感情というのは自分でも把握しきれない、言葉にできないことが多いです
が、行動が何らかの思いや感情の発露だと思うと、平戸に来ることを選んだ自分に思いが
あったのかと思いました。それが何か考えたいと思います。
- ・夏期セミナーに私も参加させていただき、とても楽しかった記憶があります。
「ならのしかのために」が印象的でした。
学生時代のお話をたくさん聞かせていただいたのでより「自分は・・・？」と考えやすかつ
たです。私も明日から行動してみたいと感じました。
ありがとうございました。

〈医学生〉

- ・香田先生が行動する中でどう考えているのか、何を考えているか、とても参考になりました。
医学生の自分たちでも実践できそうな内容で、進路なども難しく考えるよりも、その
時点での自分の気持ちに正直に生きる方が案外、後悔なく進めるのかなあと感じました。

面白いお話をありがとうございました。

- 「なぜ？」と「なら、しか、ために」の考えて方はとても感銘を受けました。
僕も今一度、自分の将来の医師像なぜを考えてみたいと思います。